

2018 年度第 1 回支部集会【九州・沖縄支部】

「日本語教育施策と地域の日本語支援を考える」学びの交流会 in 福岡

2018 年 6 月 30 日(土)・7 月 1 日(日) 福岡女子大学

主催:公益社団法人日本語教育学会 共催:公立大学法人福岡女子大学

協力:九州日本語教育連絡協議会

住所:〒813-8529 福岡県福岡市東区香住ヶ丘 1-1-1 福岡女子大学

交通アクセス: <http://www.fwu.ac.jp/about/access.html>

※「天神中央郵便局前」バス停(18A 乗り場)より西鉄バスのご利用が便利です。

※ご来場の際は、公共の交通機関をご利用ください。やむを得ない事情により自家用車でご来場なさる方は事前にお知らせください。

参加費:1,500 円(当日会場にて現金でお支払いください)

※ご参加予定の方は、[学会ウェブサイトのマイページ](#) から 6 月 27 日までに事前参加登録をお願いいたします。事前参加登録方法について詳しくは、[こちら](#) をご覧ください。

<注意>2018 年度より予稿集は全て電子版となります。事前参加登録をすると開催前に予稿集をダウンロードできます。事前参加登録をしなくても、会場での当日参加を受け付けますが、紙での予稿集配布はありませんので、必ずご自身でインターネットにつながることができるスマートフォン、タブレット、PC等を充電した状態でご持参ください(会場に参加者の電源はありませんのでご注意ください)。

※昼食は、両日とも大学内のカフェテリアが営業していますので、ぜひご利用ください。大学内にコンビニ等はありませんので、昼食をご持参の方は事前にご用意ください。

※キャンパス内は禁煙です。

※懇親会は当日会場受付にて申込を受け付けます(懇親会参加費:3,000 円予定)。

※書籍販売等の賛助会員出展ブースを設ける予定です。詳細は後日ご連絡いたします。

◆支部集会日程◆

第 1 日目 6月30日(土)		第2日目 7月1日(日)	
12:30	受付開始【C201】	9:30	受付開始【C201】
13:00-13:15	開会式【C201】	10:00-12:00	ワークショップ【C101】
13:15-14:45	講演【C201】	12:00-13:00	発表応募支援セミナー【C207】
15:00-16:30	口頭発表【C201】	13:00-14:00	地域日本語教育紹介【C101】
16:45-18:15	ポスター発表 【C204・C205・C208】	14:20-15:50	交流ひろば<1> 【C204・C205】
16:45-18:00	発表応募支援セミナー 【C207】	14:50-16:20	交流ひろば<2> 【C206・C208】
18:30-	懇親会【多目的ホール】	16:30	閉会



第1日目 6月30日(土) 受付開始 12:30

【13:00-13:15】開会式

会場:講義棟 2階C201

【13:15-14:45】講演

会場:講義棟 2階C201

「外国人労働者の受け入れでどう変わる？」

—これからの日本語教師の役割—

講師:田尻 英三氏(龍谷大学名誉教授)

この数年の政府の外国人労働者の受け入れ施策が大きく変わりました。法務省の告示基準での「日本語教員の要件」も発表されました。文化庁の「日本語教育人材の養成・研修の在り方」も決まりました。これらにより、日本語教師の役割も、以前からのものとは変わって来ました。この動きを説明したうえで、田尻の私案を当日配布します。これは、日本語教育推進議連の勉強会で発表したもので、未公開の資料です。

◆◆◆田尻先生への事前質問を受け付けます!(6/23まで)◆◆◆

詳細は7月1日のワークショップ欄をご覧ください。

【15:00-16:30】研究発表(口頭発表)

会場:講義棟 2階C201

※本発表は査読審査を経た学会発表です。発表要旨は本プログラム末尾、詳細は予稿集をご覧ください。

- ① 15:00-15:30 中国語を母語とする中級レベルの日本語学習者の移動先を表す「に」と存在場所を表す「に」の習得
岡田美穂(至誠館大学)
- ② 15:30-16:00 高学歴の外国人保護者のマルチリンガル教育への意識
パンクラートワ・スネジャーナ(大阪大学大学院生)
- ③ 16:00-16:30 台湾人初級日本語学習者のもつ発音学習戦略
羅濟立(台湾・東呉大学)



【16:45-18:15】 研究発表(ポスター発表)

会場: 講義棟 2階C204・C205・C208

※本発表は査読審査を経た学会発表です。発表要旨は本プログラム末尾、詳細は予稿集をご覧ください。

- ① 【C204】コーパスによる日本語母語話者と日本語学習者の文法項目の使用傾向の比較
鋤野亜弓(福岡女子大学院修了生)
- ② 【C204】『日本語話し言葉コーパス』の「課題指向対話」に見られる独り言から始まる連鎖組織
呉秦芳(台湾・真理大学)
- ③ 【C205】外国につながる子どもの学びを地域で支援するために
—小中学校での日本語支援実践からの示唆—
唐木澤みどり(学習院大学)
- ④ 【C208】メールタスクにおける「願望を表す表現」の使用実態に関する一考察
—日本語学習者と日本語母語話者の「ている」の有無について—
美玲(福岡女子大学大学院生)・橋本直幸(福岡女子大学)
- ⑤ 【C208】英語で学ぶICT遠隔会話日本語教材「さるく」—開発過程と運用報告—
杉村佳彦(宮崎大学)・和田恵(同)

【16:45-18:00】 発表応募支援セミナー 会場: 講義棟 2階C207

◆前半◆発表応募支援セミナー

「そろそろ何か発表してみたいけど、どうやったらいいの?」「応募したけど不採用だったのは、何がいけなかったの?」。そんな皆さんを支援するのも「チャレンジ支援委員会」の使命です! 今回も支部集会にお邪魔して「発表応募支援セミナー」を行います。

◆後半◆個別相談会

「おせっかい侍」が応募書類のチェックやみなさんの研究スタートアップのお悩みについて個別に相談に応じます。支部集会・大会の発表応募書類のチェックをご希望される方は、学会ウェブサイト支部集会ページにある発表応募提出様式の「様式(A)応募者情報シート」「様式(B)査読用要旨」をご持参ください。

※<前半>または<後半>だけ参加の方も歓迎します。

すでに発表をお考えの方も、これからという方も、ぜひこの機会をご利用ください!

【18:30-】 懇親会

会場: 多目的ホール



第2日目 7月1日(日) 受付開始 9:30

【10:00-12:00】 ワークショップ

会場: 講義棟 1階C101

「無関心ではられない！政府の日本語教育施策を読み解く」

講師: 田尻 英三氏(龍谷大学名誉教授)

現在、政府による外国人受け入れと、それに対する日本語教育施策が次々と発表されています。ただ、それらの施策の文言だけを見ては、それらの施策の狙いが見えてきません。当日は、参加者の質問に応えながら、実際のサイトの読み取り方を探っていきたいと考えています。参加者には、『外国人労働者受け入れと日本語教育』(ひつじ書房)所載以降の政府の施策を表にした未公開の資料を配布します。

◆◆◆田尻先生への事前質問を受け付けます！(6/23まで)◆◆◆

政府の日本語教育施策や外国人労働者受け入れについてなど田尻先生への質問、また、他の参加者と意見交換や情報交換したい項目を事前に受け付けます。寄せられた質問等は、ワークショップの際に田尻先生に取り上げていただきます。疑問点、気になること、詳しく知りたいこと、情報共有したいこと、何でも結構です。田尻先生から直接説明が聞けるチャンスですので、お気軽にご質問ください。多くの質問をお待ちしております。

【質問送付先】 日本語教育学会九州・沖縄支部活動委員会委員 吉川達 宛

E-mail kyushuokinawasibu@gmail.com

(メールには質問に加えて、ご所属、お名前を記載ください)

【12:00-13:00】 発表応募支援セミナー 会場: 講義棟 2階C207

個別相談会

「おせっかい侍」が応募書類のチェックやみなさんの研究スタートアップのお悩みについて個別に相談に応じます。支部集会・大会の発表応募書類のチェックをご希望される方は、学会ウェブサイト支部集会ページにある発表応募提出様式の「様式(A)応募者情報シート」「様式(B)査読用要旨」をご持参ください。



【13:00-14:00】(委員企画)地域日本語教育紹介 会場:講義棟 1階C101

「外国にルーツを持つ児童・生徒への日本語支援 —福岡市の事例—」

池田尚登氏(福岡市日本語サポートセンター)

伊藤亜希子氏(NPO 法人ともに生きる街 ふくおかの会)

野崎千代氏(福岡 YWCA)

在留外国人が増加する中、地域に暮らす外国人児童・生徒への日本語支援は大きな問題になりつつあります。このセッションでは、福岡市において外国にルーツを持つ児童・生徒への日本語支援に関係している3つの団体に活動内容や課題をご紹介いただき、会場参加者と情報共有を行います。具体的には、福岡市立の学校への外国人児童・生徒の受け入れ状況、及び「福岡市 JSL 日本語指導教育研究会」の紹介(福岡市日本語サポートセンター)、小・中・高校生のための日本語クラス「ハッピースクール」の活動紹介(福岡 YWCA)、外国にルーツを持つ児童・生徒のための就学・進路相談、及び「NPO 法人ともに生きる街ふくおかの会」の活動紹介(NPO 法人ともに生きる街ふくおかの会)を行います。会場の参加者と活発な意見交換が行えることを期待します。

【14:20-15:50】交流ひろば<1> 会場:講義棟 2階 C204・205

※「交流ひろば」は、日本語教育とその関連領域の話題についての参加者相互の情報共有および同じ興味や問題意識を持つ者同士のネットワーク作りを目的としています。審査を経た学会発表ではありません。「交流ひろば」への出展は、学会員・非会員に限らずどなたでも可能です。

① 【C204】MS エクセルの VLOOKUP 関数を利用した時間割作成補助ツール

中川健司(横浜国立大学)

時間割作成は、学習環境を整備する「教室の外」の仕事の一つであるが、いつ(何時限目に)どこで(どの教室で)だれが(どの教員が)何を(どの授業を)という情報を整合性を保ちつつ管理する必要があり非常に煩雑な作業を要求される。発表者は時間割作成作業の軽減を目的として、MS エクセルの VLOOKUP 関数を利用した時間割作成補助ツールを作成した。

② 【C204】コーパスに基づいた初級シラバステキスト

池田富見子(久留米大学)

あるから教えるのではなく、使うから教えるという視点から、コーパスを元に初級シラバスを見直し、テキストを作成しています。今回はそのテキストを紹介するとともに、皆様のご意見を広くお聞きしたいと思っています。



③ 【C205】地域と留学生をつなぐ活動—参加者すべてをWINにする—

田村綾子(環太平洋大学)・長野真澄(同)・大平真紀子(同)

私たちは教育委員会や市・町、地域と連携し、留学生と地域との交流活動をしています。内容は①ロゲイニング(生徒や地域の方と留学生で地域を巡り、魅力を発見し、発信する)、②留学生の母語によるお話し会、③町おこし活動等です。私たちの活動を紹介するとともに、活動を研究に結びつけるお知恵を拝借できればと思います。

④ 【C205】日本語の性差と日本語教育:性の多様性とどう向き合うか

有森丈太郎(カナダ・トロント大学)

性的マイノリティを指す「LGBT」という言葉を耳にする機会が増えてきましたが、当事者は性差の大きい日本語を学ぶ中で、どういった経験をするのでしょうか。より良い学習環境作りに向けて教師にできることは何でしょうか。このような点について皆さんと経験や実践の共有、意見交換を行いたいと考えています。

【14:50-16:20】 **交流ひろば<2>**

会場:講義棟 2階C206・208

※「交流ひろば」は、日本語教育とその関連領域の話題についての参加者相互の情報共有および同じ興味や問題意識を持つ者同士のネットワーク作りを目的としています。審査を経た学会発表ではありません。「交流ひろば」への出展は、学会員・非会員に限らずどなたでも可能です。

⑤ 【C206】メール作成支援システム『花便り』:読み手に配慮してメール文を書こう!

金庭久美子(立教大学)・橋本直幸(福岡女子大学)

日本語学習者がメールを作成する際、文法的に正しくても、意図せず日本人にとって違和感のある表現を使ってしまいがちです。そんな学習者が読み手に配慮したメールが書けるように、メール作成支援システム『花便り』を作りました。当日は、実際にウェブサイトを体験していただき、意見交換を行いたいと思っています。

⑥ 【C206】ゲーミフィケーション「日本語番付」の実践—学外での学習意欲向上を目指して—

岩本穰志(立命館アジア太平洋大学)

「日本語番付」とは、相撲の番付をモチーフとしたレベルアップ型のゲーミフィケーションで、日本語学習者の学外における日本語使用を促進するために2016年より行っています。今回は実際にこれをどういった形で行っているか、これまでにどのような成果と課題があったか紹介し、ご意見やご提案をいただければと考えています。



⑦ 【C208】誘導せずに相手から話を聴く方法－自由報告を練習してみよう－

羽瀨由子(徳山大学)・立部文崇(同)

私たちは、相手から話を聴くときに、できるだけ負担をかけずに、誘導のない方法で事実を聞き出す面接法について研究をしています。今回は日本語の会話能力を判定後、「司法面接 (forensic interview)」で用いられている「自由報告」による面接をペアワークで練習してみます。その後、日本語学習者から話を聴くときにどのような点を注意すべきかなどについて一緒に話し合しましょう。興味のある方はぜひお越しください。

⑧ 【C208】多読から広がる活動を考えよう

佐々木良造(秋田大学)・吉川達(佐賀大学)

学習者の読む力を養う方法の一つに多読があります。「読む」ことから出発して、「聞く」「話す」「書く」の技能につながる活動の実践例を紹介し、みなさんと多読および多読を出発点とした活動について情報共有、意見交換を行いたいと思います。

⑨ 【C208】多読教材「KCよむよむ」の紹介

東健太郎(国際交流基金関西国際センター)・湯本かほり(同)・八嶋康裕(同)

私たちは入門・初級・初中級レベルの日本語多読用図書「KCよむよむ」を作成しています。日本の生活や文化に関連するトピックを中心に、バラエティー豊かに描いています。当日は、実際の授業での活用例などを紹介し、多読教材の作り方についても共有したいと考えています。多読に関心のある皆さんと情報交換ができればと思っています。

【16:30】閉会

◆問合先◆公益社団法人日本語教育学会 支部活動委員会

〒101-0065 東京都千代田区西神田 2-4-1 東方学会新館 2F

TEL:03-3262-4291 FAX:03-5216-7552 E-mail:shibu@nkg.or.jp (前日 18 時まで)



[2018 年度第 1 回支部集会(福岡女子大学, 2018.6.30)発表・口頭発表①]

中国語を母語とする中級レベルの日本語学習者の移動先を表す「に」と存在場所を表す「に」の習得

岡田美穂

中級レベルの学習者は移動先「に」を「で」と誤用すること(鈴木 1978)や存在場所「に」を「で」と誤用することが報告されている(岡田・林田・李 2015)。誤用は中級レベルの間はどう減少していくのか。中級レベルの中国語話者 29 人を対象に物語風の助詞記入式調査(例「次郎も山()木を植えます」)及び翻訳調査を行った。N1 合格者 2 人にも協力を得た。29 人は N2 の読解問題 14 問の得点の平均と標準偏差から上位(10 人)、中位(13 人)、下位(6 人)に分けた。その結果、存在場所(「対比型」,「集合型」,「場面転換型」)「に」→「で」の誤用は上位になっても減少せず、「集合型」の誤用は N1 合格者までも残り、移動先「に」→「で」の誤用も減少せず N1 合格者までも残ることが分かった。29 人の殆どは「小学校()集まる」の翻訳に「に」と「で」に当たる「在」を用いていたのに対し(「在小学校集合」), N1 合格者は「在」を用いていなかった(「集到小学校」)。

(至誠館大学)

[2018 年度第 1 回支部集会(福岡女子大学, 2018.6.30)発表・口頭発表②]

高学歴の外国人保護者のマルチリンガル教育への意識

パンクラートワ・スネジャーナ

教育者関係者と外国人保護者の協力はことばの壁などもあって、浅いものなのではないかと思われる。本発表では、インタビュー調査を実施し、教育者に届けるべき親の意見を明らかにする

本研究の目的は、多国籍の高学歴の保護者は子どもにどの言語を教えるのか、リテラシー教育を行うどうか、そしてその理由を調べることである。高学歴の保護者に絞る理由は、可能な限り教育熱心な保護者の意識を調査したかったからである。

結果として、国籍が異なる保護者の意識の類似性及び同国籍の保護者の考えの違いが明らかになった。また、子どもに教えた言語を選ぶ際に、母語保持と英語教育の両立が課題であった。そして、自分自身の経験を振り替えて子どもに教えた言語を選ぶ親は全員であった。更に、読み書き教育はどの年齢から始めてもよいという意見が目立った。

以上のことは子どもの母語教育に大切な示唆を与えると思われる。

(大阪大学大学院生)



[2018 年度第 1 回支部集会(福岡女子大学, 2018.6.30)発表・口頭発表③]

台湾人初級日本語学習者のもつ発音学習ストラテジー

羅濟立

本発表はこれまであまり研究のない台湾で日本語を学ぶ大学生の発音学習ストラテジーの調査結果を報告することで、台湾人に対する日本語発音教育のための資料を提供することを目的としている。台湾人の発音学習のストラテジーを考察することによって、その特徴を示すことにする。加えて、性別、入学前の日本語学習歴の有無、発音の成績の差によるストラテジーの違いも取り上げる。本研究で調査に用いる学習ストラテジー調査は Oxford (1990) の SILL と小河原 (1997), Peterson (2000) を参考に、台湾人学習者や学習環境にあった設問内容を考えて作成し、①記憶ストラテジー (3項目)、②認知ストラテジー (15項目)、③補償ストラテジー (2項目)、④メタ認知ストラテジー (8項目)、⑤情意ストラテジー (4項目)、⑥社会的ストラテジー (4項目) の 6 領域、36 項目を確定した。これらの項目に対して SPSS による基礎統計で分析を行おうとする。

(台湾・東呉大学)

[2018 年度第 1 回支部集会(福岡女子大学, 2018.6.30)発表・ポスター発表①]

コーパスによる日本語母語話者と日本語学習者の文法項目の使用傾向の比較

鋤野亜弓

本発表では『日本語能力試験 出題基準 (改訂版)』(2002) の「2 級の文法的な〈機能語〉の類 (サンプル)」にある項目を場面ごとに日本語母語話者の使用頻度調査、使用場面調査した結果の使用頻度上位 2% の 39 の文法項目を音声言語、文字言語両方の産出場面において、日本語母語話者と日本語学習者はどのような使用傾向の同異点があるかコーパスを用いて比較調査を行った。

母語話者と学習者が同じ使用傾向だったのは 39 項目中 7 項目であった。一方、日本語母語話者と異なる使用傾向だったのは 15 項目で、それらは大きく 5 つの傾向に分けられた。さらに、母語話者の使用場面調査の結果と比較し、どの項目が「理解」、どの項目が「産出」につながるように指導した方がいいのかを提案した。母語話者と学習者の使用傾向を比較し、同異点が明らかになることによって、日本語教師の指導の際に役立てられ、日本語学習者自身もより注意して学習することができるだろう。

(福岡女子大学大学院修了生)



[2018 年度第 1 回支部集会(福岡女子大学, 2018.6.30)発表・ポスター発表②]

『日本語話し言葉コーパス』の「課題指向対話」に見られる独り言から始まる連鎖組織

呉秦芳

本発表では、『日本語話し言葉コーパス』の「課題指向対話」における日本語母語話者間の独り言から始まる連鎖組織に関し、その談話実態を分析した。その使用実態などの様相から、コミュニケーションにおける配慮表現としてのポライトネス・ストラテジーに焦点を当てた。データ数は、母語場面 10 会話で、発話者はいずれも 20 代～40 代、初対面約 10 分の会話である。会話の内容は、話題に特に制約を設けず、自由に対話を行ったものである。その結果、独り言から始まる連鎖組織として、話者の感情・感覚などを表出する連鎖組織と、話者が抱えている問題について思索する連鎖組織とに分けられた。また、女性の会話では「感覚」や「感情」を男性より多く使用する傾向が見られた。それは相手の立場を顧慮するという配慮が働いており、ネガティブ・ポライトネスと見なし得る側面を持つことから、ポライトネス理論の機能と関わりがあることが示された。

(台湾・真理大学)

[2018 年度第 1 回支部集会(福岡女子大学, 2018.6.30)発表・ポスター発表③]

外国につながる子どもの学びを地域で支援するために

—小中学校での日本語支援実践からの示唆—

唐木澤みどり

本発表は、これまで主に小中学校で行われてきた外国につながる子どもたちへの支援の成果が、地域の学習支援教室等の学校外の支援の場で十分に活かせていないのではないかという問題意識から、地域においてもよりよい学習支援を行うために、学校における日本語支援実践の成果や課題を地域の学習支援にどのように活かせるか、先行研究もふまえながら検討することを目的とする。分析、考察の結果から、地域の学習支援の場においては、①子どもの自律性、主体性を尊重した学習、②継続的に子どもの成長を見守る視点からの支援の可能性が示唆された。そのためには、子どもと支援者との間の伝えたいことが伝え合える関係性の構築、支援者自身の主体性及び支援者同士の連携が鍵となると考えられる。また、今後の課題として、学校や家庭の他、様々な専門家との連携も重要であり、地域における支援実践を継続する中で模索していきたい。

(学習院大学)



[2018 年度第 1 回支部集会(福岡女子大学, 2018.6.30)発表・ポスター発表④]

メールタスクにおける「願望を表す表現」の使用実態に関する一考察

—日本語学習者と日本語母語話者の「ている」の有無について—

美 玲・橋本直幸

本発表では「研究生受け入れをお願いする」というタスクの中の〈願望を表す表現〉に関して、日本語母語話者(NS)と学習者の使用傾向に顕著な違いが見られたことを報告し、それを指導の中に取り入れるべきであると主張する。学習者に多く見られた形式として、(1)「～たいです」、(2)「～たいと思う」がある。(1)は習熟度の低い学習者に見られる表出型の形式である。(2)は「思う」を使用した述べて型形式だが、NSには使用が見られない。「～たいと思う」は先行研究で指摘されている通り、〈事前の意思決定〉を表す「～ようと思う」に近い意味を持つ。「大学院に入る」ということが本人の意志だけで実現できる事態でないにもかかわらず、「入りたいと思います」と述べることで、相手の意志を確認する前に本人だけで意志決定をし、表明していると解釈されてしまう。一方、NSは「～たいと思っている」を使用し、継続した願望であることを表している。

(美玲—福岡女子大学大学院生・橋本—福岡女子大学)

[2018 年度第 1 回支部集会(福岡女子大学, 2018.6.30)発表・ポスター発表⑤]

英語で学ぶ ICT 遠隔会話日本語教育教材「さるく」

—開発過程と運用報告—

杉村佳彦・和田恵

外国人学習者用に提供する英語で学ぶ e-learning コンテンツ「さるく」の教材開発について、その制作過程と運用方法を報告する。「さるく」には日本語能力試験に対応した N5～N1、ビジネス日本語の 6 種類のコンテンツが制作され、テストを含めた合計 205 コンテンツが視聴可能である。コミュニケーションツールとして開発され、効率よく学習できる文字教育の不必要な教材でもあるが、英語、日本語、ローマ字にて表記された各コンテンツが現職日本語教師により英語で授業をされている。更に、上級レベルになれば、使用言語も日本語が増加し、文字教育も必然的に必要となるよう工夫もされている。使用ソフトは教育情報サービス社の ThinkBoard システムを利用し、軽いコンテンツで短時間に会話可能な e-learning 教材を開発した。多様化する外国人対象者が点在する宮崎県における日本語教育の支援はもとより、世界に向けた日本語自学 ICT 教材の開発過程とその運用方法を報告する。

(宮崎大学)

